

精神医学：小児精神病

41-092 男性（男児）に多いのはどれか。

- 1. 小児自閉症
- 2. 小児欠伸てんかん *小学校の女児に多い。*
- 3. 摂食障害 *思春期～青年期の女性に多い。*
- 4. うつ病 *男：女 = 1：2*
- 5. ピック病 *男女差なし*

41-099 小児の精神障害で正しいのはどれか。

- 1. 選択性緘黙は言語発達の遅れによって生じる。 *社会的な情緒障害*
- 2. 多動性障害では課題への注意集中が困難となる。
- 3. アスペルガー症候群は言語発達の遅れを伴う。 *正しい。自閉症では精神遅延や言語遅延を伴う。*
- 4. 吃音は単純音声チックに分類される。 *とは別のものである。*
- 5. 児童期に統合失調症が発症することはない。 *稀だがある。*

42-100 自閉症で正しいのはどれか。

- 1. 乳児期の虐待(ネグレクト)が原因となる。 *ではない。*
- 2. ~~20%~~ ⁸⁰に精神遅滞の合併がある。
- 3. 言語の意味理解が障害される。 *はある程度できる。*
- 4. 家庭ではほぼ問題なく会話できる。 *も会話は困難である。*
- 5. 特定のものに対するこだわりがある。

① 選択性緘黙 *かんこく*
言語障害はないが、家の中で家族とは話すが、学校では話さない、というようにある。

② チック
① 単純型
・運動性チック
まばたき、しかめ顔、肩こめなど
・音声性チック
口をほら、鼻を引、「フ！」など
② 複雑型
・運動性チック
自分を叩いたり、他人を叩いたり
・音声性チック
汚言(社会的に受け入れられない、かわいげな言葉など)

43-099 心理的発達の障害に分類されるのはどれか。

- 1. 抜毛症 *→ 学習障害、広汎性発達障害など*
- 2. 学習障害
- 3. チック障害
- 4. 分離不安障害
- 5. 非器質性遺尿症 *器質的な原因がなければ、おもらしとしてしまうもの。*

43-100 小児の精神障害で正しいのはどれか。

- 1. 多動性障害は女児よりも男児に多い。
- 2. 選択性緘黙は言語理解の障害を伴う。 *は正しいが、特定の状況で話せない。*
- 3. 吃音は複雑性音声チックに分類される。 *は別のものである。*
- 4. 乳児期の虐待は自閉症の原因となる。 *ではない。*
- 5. 周産期の脳損傷は Down(ダウン)症の原因となる。 *は、21番目の常染色体が3本(通常は2本)あること。(21トリソミー)*

* Tourette 症候群
小児期、青年期に発症、複数なチック症状が1年以上続くもの。

44-100 小児自閉症でみられるのはどれか。

- 1. ごっこ遊びをする。 *は抽象的な遊びは困難*
- 2. 人見知りをしない。
- 3. 新しい環境を好む。 *環境の変化を好まない、対応できない。*
- 4. おとぎ話を聞きたがる。 *は空想、想像するところが困難。*
- 5. 身振りで意思を伝える。 *手振りなどは、非言語的表意も困難。*

③ 分離不安障害
保育所などに行くときに、母親と別れたり離れることが怖く、泣く、不安になる。これが非常に強い状態

45-A-099 小児の精神障害で正しいのはどれか。

1. 吃音は強迫性障害に分類される。吃音と強迫性障害は異なる。
2. **ネグレクト**によって反応性愛着障害が起こる。
3. 児童期に妄想型統合失調症が発症することはない。ごく稀にある。
4. 選択性緘黙は脳の器質的病変を原因とすることが多い。社会的な情緒障害である。
5. 一過性チック障害の約半数が Tourette 障害に進行する。ことは、ほとんではない。
から

46-A-081 「全般的な知能に大きな低下がなく、文字を読めば分かるが書くことができない」のはどれか。

1. 学習障害
2. Rett 症候群 ... 女児にみられる。7~24か月までは正常に発達
3. Tourette 症候群 ... 上記のものか運動の障害や衝動の著縮をおこすもの。重度の知能障害。
4. 広汎性発達障害
5. 注意欠陥多動性障害
↳ 注意障害、多動性、衝動性を持つ。

当 反応性愛着障害

虐待を受けた幼児にみられる。他者への恐れと過度の警戒、友だちとの交流が乏しいなどの社会的関係の異常などがみられる。

子と母の虐待

身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト(養育の拒否、無視)などがある。

当 脳抑制性愛着障害

乳児期から施設で育てられた子と母におこりやすい障害。

木スロタリズム、施設症候群ともいう。

愛着の対象が打散した状態。

47-A-099 小児の精神障害で正しいのはどれか。

1. 吃音は行為障害に分類される。小児期および青年期に通常発症
2. 児童期に恐怖症を発症することはない。ある。する行動力および情緒の障害。
3. 虐待を原因として反応性愛着障害が起こる。
4. 小児自閉症は約半数が統合失調症に移行する。自閉症と統合失調症との関係は不明。
5. 選択性緘黙は脳の器質的病変を原因とすることが多い。調和的ではない。

当 学習障害

全般的な知的発達の遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す。

47-P-091 広汎性発達障害で認めにくいのはどれか。

1. 姿勢異常
 2. 精神遅滞
 3. 限局した反復行動
 4. コミュニケーション障害
 5. 相互的な社会的関係の異常
- ↳ 小児自閉症、Asperger 症候群、Rett 症候群

49-A-100 小学2年生の女児。学校では一言も話さない。

うなずきなどのジェスチャーでコミュニケーションは可能。自宅では普通に会話ができる。考えられるのはどれか。

1. 読字障害
2. **選択性緘黙** 家の中で家族とは普通に会話できるのに学校では会話できないこと
3. Rett 症候群 ... いうたので、社会的な情緒障害といわれる。
4. 広汎性発達障害
5. Tourette 症候群

当 反抗挑戦性障害

・自分にとって有益なことであっても意図的に反抗したり、周囲に対して反抗的・挑戦的態度をしてしまうもの。(暴力に及ぶことはない)

・ADHD(注意欠陥/多動性障害)の半数程度に合併する。

50-P-100 小児の精神障害で正しいのはどれか。

1. 吃音は女児に多い。男児
2. 分離不安障害は学童期に多い。幼児期
3. **反応性愛着障害**は過度に警戒的である。
4. 反抗挑戦性障害の症状は家庭内に限局するわけではない。
5. 注意欠陥/多動性障害では成長につれて多動よりも不注意が軽快しやすい。

成長につれて、多動は自立したくなるが、注意障害が継続することが多い。